

事業の背景・目的

櫛形山のアヤメ群落は、山梨県自然環境保全条例に基づき自然記念物に指定された。2006年からアヤメ開花期に花がみられなくなったため、市ではアヤメの開花状況の調査を行い、野生動物、特にニホンジカの食害の影響が主たる原因という結論に至った。大規模にシカよけネットを設置したところ、柵内ではアヤメや他の花についても復活がみられる。しかし、柵外ではシカにより草は食い尽くされ、樹木の皮を剥ぐ被害も多く見られるようになった。これにより、原生林に変化が見られるようになる。シカの樹皮剥ぎは、枯死木を急激に増加させ、樹木の次世代が育たずに森林生態系の衰退をもたらすため、緊急に保全措置を講ずる必要がある。

事業の内容

事業①ア 防鹿柵設置区（3）櫛形山山頂周辺原生林保全防 鹿柵設置事業

・ 設置場所について専門委員と踏査後決定し、資材を購入。ヘリコプターでの荷上げのための資材の梱包作業。現場近くの荷下ろし場所を確定し、空輸を実施。その後設置工事を完了した。

事業②イ 普及啓発事業

・ 柵設置については、地域市民団体と共同で行う計画だったが、施工箇所が急峻で危険を伴うため、施工は業者委託とした。
・ 保全活動の趣旨、取り組みの内容について、南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念シンポジウム等で情報発信した。
・ 柵設置後に地元市民団体による巡視を実施。なお、過年度事業で設置した柵についても計16回の巡視を実施。（今後も引き続き巡視し、柵内の回復状況評価をしていく予定）

得られた成果

（主な成果）

- ・ 防鹿柵の設置によって立木の枯死、稚樹・後継木の消失、落葉層及び腐植層の衰退などを防止。またこれによる植生回復を期待。
- ・ 普及啓発の実施により、保全活動への住民・企業の参画、理解向上等を促進。

（今後の予定）

本交付金事業終了後も、当検討会は当面存続する。事業成果として得られた手法や体制、調査結果等を活用しながら保全活動を継続する。取組の進捗や成果については、可能な限り公表し、地域住民や企業、学校等への普及啓発も継続するなどし、構築した体制の維持やさらなる強化も試みる。

なお、現行の櫛形山原生林保全計画の計画期間は本事業の成果も踏まえて今後改定・更新を行う見通しとなっている。